

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2011-513025

(P2011-513025A)

(43) 公表日 平成23年4月28日(2011.4.28)

(51) Int.Cl.
A47J 45/07 (2006.01)

F I
A47J 45/07 A

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2010-550579 (P2010-550579)
 (86) (22) 出願日 平成20年9月16日 (2008.9.16)
 (85) 翻訳文提出日 平成22年11月11日 (2010.11.11)
 (86) 国際出願番号 PCT/KR2008/005447
 (87) 国際公開番号 W02009/113757
 (87) 国際公開日 平成21年9月17日 (2009.9.17)
 (31) 優先権主張番号 20-2008-0003345
 (32) 優先日 平成20年3月14日 (2008.3.14)
 (33) 優先権主張国 韓国 (KR)

(71) 出願人 510246057
 キム, ジョンドユク
 大韓民国, 604-817, プサン, サハ
 グ, クピョンドン 293-12
 (74) 代理人 100114775
 弁理士 高岡 亮一
 (72) 発明者 キム, ジョンドユク
 大韓民国, 604-817, プサン, サハ
 グ, クピョンドン 293-12

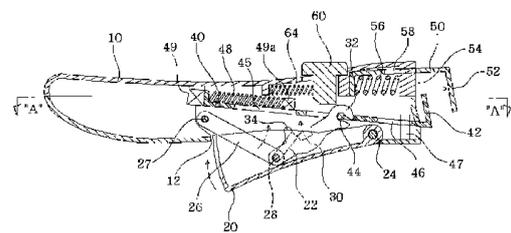
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 調理容器の着脱型取手

(57) 【要約】

本発明は調理容器の着脱型取手に関し、下方に開放部を形成し、手で握ることができる本体と、上記本体の下部にピンで組み立てられて区間回転し、開放部を通じて本体の外部に露出されるレバーと、上記本体に内蔵され、一側が第1スプリングによって弾性的に支持され、長手方向に延長して本体の前方に密着部が露出されるクランプと、上記レバーの後方で本体にヒンジで組み立てられた回転バーと、上記クランプと連結される作動バーの他側が上記レバーの作動溝に沿って作動する回転ピンによってレバーと傾斜された角度に組み立てられたクランプ密着手段と、上記クランプの上部で本体の前方に露出される固定部が形成されるホルダーと、上記本体の外側に露出されて、下端部が作動バーを下方に押し上記クランプを復帰させるためのボタンを含む構成である。これによって、多様な大きさの調理容器に対して堅固で、且つ簡単に着脱させることができ、使用上の便宜性を高めることができる効果が期待される。

[Fig. 2]



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

下方に開放部（12）を形成し、手で握ることができる本体（10）と；

上記本体の下部にピンで組み立てて区間回動し、開放部を通じて本体の外部に露出されるレバー（20）と；

上記本体に内蔵され、一側が第1スプリング（48）によって弾性的に支持され、長手方向に延長して本体の前方に密着部（42）が露出されるクランプ（40）と；

上記レバーの後方で本体にヒンジで組み立てられた回動バー（26）と、上記クランプと連結される作動バー（30）の他側が上記レバーの作動溝（22）に沿って作動する回動ピン（28）によってレバーと傾斜された角度で組み立てられたクランプ密着手段と；

上記クランプの上部で本体の前方に露出される固定部（52）が形成されたホルダー（50）と；

上記本体の外側に露出され、下端部が作動バーを下方に押して上記クランプを復帰させるためのボタン（60）と；で構成されることを特徴とする調理容器の着脱型取手。

【請求項 2】

上記ホルダー（50）の他側は本体に内蔵された第2スプリング（56）によって弾性的に引っ張られるように構成されることを特徴とする請求項1に記載の調理容器の着脱型取手。

【請求項 3】

上記本体（10）にはボタン（60）を弾性的に密着して復帰させる第3スプリング（64）が備えられることを特徴とする請求項1に記載の調理容器の着脱型取手。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は調理容器の着脱型取手に関し、さらに詳しくは、調理容器に取手を分離した状態で料理を終えた後、取手を附着して熱い調理容器を簡単に、且つ安全に移すことができる調理容器の着脱型取手に関する。

【背景技術】**【0002】**

一般に、調理容器は各種料理の調理過程によって釜、鍋、フライパンなどに分けられ、加熱器具の上で食べ物を茹でたり焼いたりなどの料理をする。

【0003】

この時、上記調理容器には、外側に一つまたは二つの取手が構成されて、調理が終わると、上記取手を取って所望の位置に移動させることができる。しかし、上記調理容器はガスなどの熱源によって長時間加熱されることによって、取手にも熱が伝達されて手で握る時火傷の虞がある。また味噌チゲや特殊な料理をおいしく調理できるトッベギ（土焼きの食器）は、土を原料とする材質の特性上、取手が附着されずに生産されるため、高温のトッベギを移すためには保護手袋やヤットコを利用する。この過程で器が滑って逃しやすく、これは周りの多くの人に怪我をさせる虞がある。

【0004】

このような問題点を解決するために、従来には調理容器と分離された取手を簡単に附着、分離させることができる構造の調理容器の取手が大韓民国登録実用新案第20-422596号（着脱の容易な容器取手）、大韓民国登録実用新案第20-166097号（調理器具用取手の着脱構造）などで多様に提示されている。

【0005】

上述したような従来技術が内包していた諸問題点を解消するために、本出願人によって先出願された大韓民国登録実用新案第20-439045号（キッチン容器着脱用取手）があり、概略的には、取手を構成する本体と、被動部と、支持部と、被動部密着手段と、被動部復帰手段などで構成されており、具体的な説明は省略する。

【0006】

しかし、上記のキッチン容器着脱用取手は、レバーを固定する弾性板の固定力が弱くて、被動部が調理容器と堅固に固定されることができなく、上記弾性板が被動部を固定した状態で弾性的に曲げられながら固定が解除される問題点が発生した。

【0007】

また、取手を持っている状態で被動部の固定力を解除して復帰させるためにハンドルを反らす作動が難しく、使用者に不便を与える短所と、ハンドルのプッシュ棒と連動するレバーの作動ピンの間に誤作動が頻繁で、被動部が円満に復帰しないという問題点があった。また、上記取手を調理容器に固定するためにレバーを引いて被動部を作動させる時、上記ハンドルのプッシュ棒が被動部を復帰させた状態でそり返っている場合、互いに干渉されて作動が不可能にあり、または作動ピンまたはプッシュ棒などが破損されるなど諸問題点が続出した。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0008】

【特許文献1】大韓民国登録実用新案第20-422596号

【特許文献2】大韓民国登録実用新案第20-166097号

【特許文献3】大韓民国登録実用新案第20-439045号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

20

本発明は上記のような従来技術の問題点を解決するために創出されたもので、本発明の目的は多様な大きさの調理容器に対して堅固で、且つ簡単に着脱させることができ、使用上の便宜性を高めることができる調理容器の着脱型取手を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記の目的を達するための本発明の一実施形態による調理容器の着脱型取手は、調理容器の着脱型取手において、下部に開放部を形成し、手で握ることができる本体と；上記本体の下部にピンで組み立てて区間回動し、開放部を通じて本体の外部に露出されるレバーと；上記本体に内蔵され、一側が第1スプリングによって弾性的に支持され、長手方向に延長して、本体の前方に密着部が露出されるクランプと；上記レバーの後方で本体にヒンジで組み立てられた回動バーと、上記クランプに連結される作動バーの他側が上記レバーの作動溝に沿って作動する回動ピンによってレバーと傾斜された角度に組み立てられたクランプ密着手段と；上記クランプの上部で本体の前方に露出される固定部が形成されたホルダーと；上記本体の外側に露出され、下端部が作動バーを下方に押し、上記クランプを復帰させるためのボタンとで構成されることをその特徴とする。

30

【0011】

本発明の好ましい一特徴として、上記ホルダーの他側は本体に内蔵された第2スプリングによって弾性的に引っ張られるように構成されることにある。

【0012】

本発明の好ましい他の特徴として、上記本体にはボタンを弾性的に密着して復帰させる第3スプリングが備えられることにある。

40

【0013】

本発明の特徴及び利点は添付図面に基づいた以下の詳細な説明によってさらに明らかになる。これに先立ち、本明細書及び特許請求の範囲に用いられた用語や単語は通常の意味に解釈されてはならず、発明者がその自分の発明を最善の方法で説明するために用語の概念を適切に定義することができるという原則に即して、本発明の技術思想に符合する意味や概念と解釈すべきである。

【発明の効果】

【0014】

本発明による調理容器の着脱型取手は、取手を調理容器に堅固に附着することができ、

50

ワンタッチで簡便に着脱することができて、誰も安全で、且つ容易に使用することができる便利性を提供し、調理容器に固定された取手が任意に分離されないように防止するとともに、調理容器を移す時落とすことを防止する安全性を提供する。

【0015】

また、本発明は取手を調理容器に附着させる時、調理容器を支持するホルダーに弾性的に作用することによって調理容器の厚さが異なっても緊密に密着して附着されることができるので、多様な大きさの調理容器にも広く適用することができるという長所がある。

【0016】

また、本発明は調理容器と取手がある程度の間隔を有して調理容器を火にかけて調理する過程でも取手を装着した状態で調理することができるというメリッドがある。

10

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】本発明の好ましい実施形態による調理容器の着脱型取手に関する外形を示した斜視図。

【図2】本発明による調理容器の着脱型取手を縦に切開して示した正面図。

【図3】上記図2の「A」-「A」線に沿って切開して示した平面図。

【図4】本発明による調理容器の着脱型取手の断面を示した作動状態図。

【図5】上記図4の「B」-「B」線に沿って切開して示した作動状態図。

【発明を実施するための形態】

【0018】

20

以下、添付図面を参照して本発明による調理容器の着脱型取手を説明すれば次の通りである。

【0019】

まず、図面において同一構成要素または部品は同一符号で示している。本発明を説明するにおいて、係わる公知の機能あるいは構成に対する具体的な説明は本発明の要旨を明確にするために省略する。

【0020】

図1は本発明による調理容器の着脱型取手に関する外形を示した斜視図であり、図2は本発明による調理容器の着脱型取手を縦に切開して示した正面図であり、図3は上記図2の「A」-「A」線に沿って切開して示した平面図である。

30

【0021】

また、図4は本発明による調理容器の着脱型取手の断面を示した作動状態図であり、図5は上記図4の「B」-「B」線に沿って切開して示した作動状態図である。

【0022】

上記の図面を参照すれば、上記本体10は手で握りやすく流線形の取手で、上下に分割形成して内部に空間が形成され、底面に開放部16が形成される。

【0023】

また、上記本体10には長手方向に沿って平板で延長されたクランプ40と上記クランプの上部にホルダー50が備えられ、上記クランプ40とホルダー50は本体の前方に突出して調理容器と噛み合っして緊密に密着固定されるように密着部42と固定部52が形成される。

40

【0024】

上記クランプ40は、本体の内部から長手方向に延長して本体の前方に突出され、上記本体10の内部にはクランプの両側に所定のガイドレール(図示省略)を構成させ、長手方向に沿って前/後方に移動されるように構成する。好ましくは、上記クランプ40の前方に長方形の案内孔46を形成し、本体の前方の内側に固定された案内棒47が案内孔46とスライド接触するように組立てることによって、上記クランプが左/右に揺れないように案内し、前方に向かって密着力が作用する。

【0025】

上記クランプ40は本体の内部で第1スプリング48によって弾性力が作用して後方に

50

引っ張られ、後側に設けられたストッパ 49 に密着して停止され、上記第 1 スプリング 48 の他側は本体に固定されたストッパ 49a で支持される。

【0026】

勿論、上記本体の内部の前方にもホルダー 50 の前/後作動を案内するガイドレール（図示省略）を形成し、上記ホルダー 50 には本体の案内部 54 が前/後に延長された案内孔 58 を通過して互いにスライド接触する構成になる。ここで上記ホルダー 50 は後方が本体の内部で案内部 54 に密着された第 2 スプリング 58 によって弾性的に支持されることによって、後方に密着力が作用してストッパで停止される。

【0027】

上記密着部 42 と固定部 52 は調理容器と緊密に密着するように、その端部が上/下に対向して重なるようにそれぞれ折り曲げられて形成され、上記密着部 42 の前方に固定部 52 が位置して、上記密着調理容器 100 が挟まれるように所定の間隔で離間設置する。

【0028】

また、本体には上記クランプ 40 を作動させるためのレバー 20 及びクランプ密着手段が備えられ、上記密着手段は上記レバーと連動する回動バー 26 と作動バー 30 とで構成される。

【0029】

上記レバー 20 は本体の下部一側にレバーピン 24 で組み立てられ他側が区間回動し、開放部 12 を通じて本体の外部に露出され、上記レバー 20 は凹設された空間を設け、中間部の両側に前方を向かって傾斜した作動溝 22 が形成されている。

【0030】

また、上記作動溝 22 には回動ピン 28 が組み立てられて溝に沿って作動し、上記作動ピン 28 には回動バー 26 と作動バー 30 の一側が組み立てられて互いに連結される。

【0031】

上記回動バー 26 の他側はレバーの後方に傾斜して上向きに延長して本体とヒンジピン 27 で区間回動するように組み立てられ、上記作動バー 30 は他側が前方を向かって傾斜して延長され、端部に形成された結合部 32 にクランプ 40 の中間部に設けられた連結バー 44 が挟まれながら組み立てて連動するように構成される。即ち、上記回動バー 26 と作動バー 30 が回動ピン 28 を中心に、図 2 に示すように『V』字状に上向きに傾斜されるように装着される。

【0032】

上記作動バー 30 の結合部 32 は『C』字状の溝を形成して連結バー 44 に掛けられて簡単に組み立てられ、中間部には上方に突出部 34 が形成されており、上記突出部 34 は作動バーの作動の時クランプの上方に突出され、上記クランプに形成された通孔 45 を通じて干渉されないようにする。

【0033】

上記ボタン 60 は作動バーの上部に設置して本体の外側に露出され、下端に形成された傾斜部 62 が作動バーを押して上記クランプを復帰させるように構成する。また、上記ボタン 60 の後側は、本体の内側で装着された第 3 スプリング 64 によって弾性的に密着されて前方に復帰される。

【0034】

上記のように構成された本発明の調理容器の着脱型取手は後述する作動状態の説明により容易に理解される。

【0035】

図 4 は本発明による調理容器の着脱型取手の断面を示した作動状態図であり、図 5 は上記図 4 の「B」-「B」線に沿って切開して示した作動状態図である。

【0036】

本発明の調理容器の着脱型取手を調理容器 100 に装着するために、まず上記で説明された図 2 及び図 3 の状態のように、上記レバー 20 は本体の下方に露出されており、この時、上記クランプ 40 は第 1 スプリングの弾性力によって後方に密着され、同時に上記回

10

20

30

40

50

動ピン 28 は作動溝の下方に位置した状態で、ヒンジピン 27 と連結バー 44 との間の距離が図 4 より短いことが分かる。

【0037】

次に、図 4 及び図 5 のように、調理容器 100 に密着部 42 と固定部 52 を掛けた後、上記レバー 20 を手で握るとレバーがレバーピン 24 を中心に区間回転するとともに、上記回転バー 26 もヒンジピンを中心に連動しながら回転ピン 28 が作動溝 22 に沿って前方に傾斜して進行される。また、上記作動バー 30 が連動して連結バー 44 を前方に押し、同時に上記クランプ 40 が前方に作動しながら密着部が調理容器の外側面を加圧して密着される。

【0038】

即ち、上記回転バー 26 と作動バー 30 は『V』字状の状態で上記レバーの作動によって一直線に広がりながらクランプ 40 が前進し、この時、上記ヒンジピン 27 と連結バー 44 との間の距離が最大に遠くなり、上記回転ピン 28 が回転バーと作動バーの一直線より上で折り畳まれることによって上記クランプは復帰されないで固定された状態に維持される。

【0039】

この時、上記ホルダー 50 は固定部 52 がクランプの加圧力によって前方に押されてから第 2 スプリングの弾性復元力によって調理容器をさらに堅固に密着固定させる。

【0040】

このように、上記調理容器 100 の大きさによって相対的に厚さが厚かったり薄い場合にも、上記密着部と固定部を調理容器と緊密に固定させることができる。

【0041】

以後、上記弾性板の後端は本体 10 の内側でも組立ピン 38 によって組み立てられながら回転される。従って、図 1 に示すように、レバー 30 を上に押すと、レバーと弾性板がほぼ一直線に折り畳まれながら、前/後方に広げられ、同時に、被動部は前方に移動する。この時、上記レバーと弾性板は一直線よりさらに上方へ折り畳まれて、被動部は復帰されずに位置が固定され、上記密着板と固定板との間で調理容器は装着される。一方、上記密着板が密着される時固定板は前方に押されてから第 2 スプリングの弾性力によって調理容器をさらに密着させる。

【0042】

次に、上記のように堅固に固定されたクランプ 40 の固定を解除するためには上記ボタン 60 を後方にワンタッチで引っ張ればよい。

【0043】

これは、上記ボタン 60 が後方に移動しながら、下部の傾斜部 62 が突出部 34 を下方に押すとともに上記回転ピン 28 が回転バーと連結バーの一直線より下方に移動する。この時、上記クランプは、第 1 スプリングの弾性復元力によって後方に押されながら上記回転ピン 28 は作動溝 22 に沿って下方に移動し、上記連結バーと回転バーは元々の『V』字状に再び折られて、上記レバー 20 を本体の外部に露出された状態に復帰させる。

【0044】

このように、上記ボタン 60 を後方に作動させる簡単な動作によってクランプが後方に復帰されながら調理容器 100 から取手を容易に脱離させることができる。

【0045】

上記したように構成される本発明によるキッチン容器の着脱用取手は、上記レバーを作動させることによってクランプが前方に移動しながら、調理容器 100 に堅固に装着され、または本体のボタン 60 を引く簡単な動作によって取手の固定力が解除されながら調理容器から容易に分離することができる構造を有し、好ましくは、金属部材で成形したクランプ 40 の密着部とホルダー 50 の固定部が合成樹脂を素材に成形される本体 10 から十分な距離で離間されるように製作することによって、取手に焔による熱が容易に伝達されないように防止する。

【0046】

10

20

30

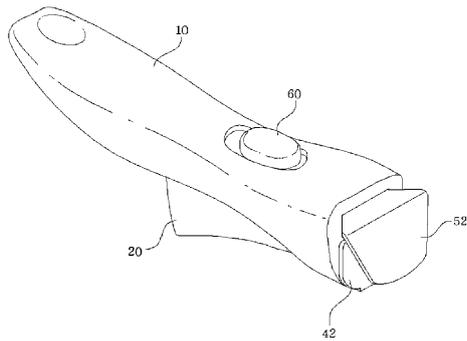
40

50

一方、本発明は記載された実施形態に限定されるのではなく、本発明の思想及び範囲を逸脱しないで多様に修正及び変形できることは、当該技術分野において通常の知識を有する者にとっては自明である。従って、そういう変形例または修正例は本発明の特許請求の範囲に属するものとりかいはすべきである。

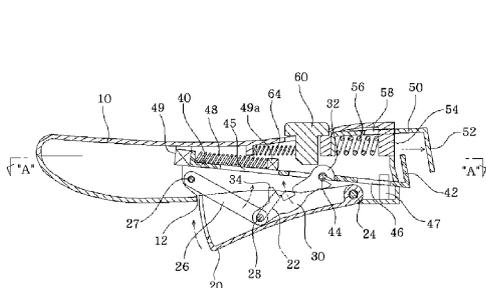
【 図 1 】

[Fig. 1]



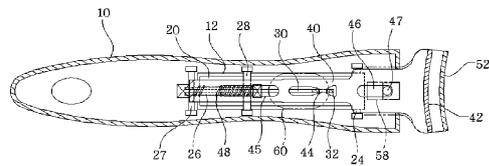
【 図 2 】

[Fig. 2]



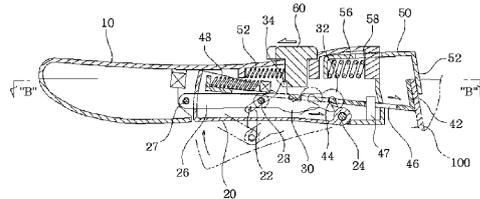
【 図 3 】

[Fig. 3]



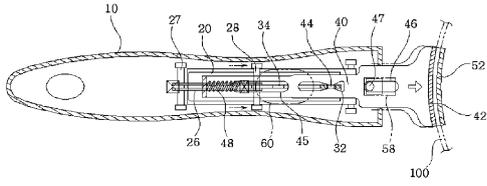
【 図 4 】

[Fig. 4]



【 図 5 】

[Fig. 5]



【 国際調査報告 】

| INTERNATIONAL SEARCH REPORT | | International application No. PCT/KR2008/005447 |
|--|--|---|
| A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER | | |
| <i>A47J 36/34(2006.01);</i> | | |
| According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC | | |
| B. FIELDS SEARCHED | | |
| Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) IPC 8 : A47J 36/34, 45/00-45/10 | | |
| Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Korean Utility models and Applications for Utility model since 1975 : IPC 8 as above Japaneses Utility models and Applications for Utility models since 1975 : IPC 8 as above | | |
| Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used) eKIPASS (KIPO internal) | | |
| C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT | | |
| Category* | Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages | Relevant to claim No. |
| Y --- A | US 2006/0006186 A1 (LORTHIOIR, CHRISTOPHE; MONTGELARD, MICHEL) 12 JANUARY 2006 See abstract, paragraphs 0025-0030, 0036, 0061; claims 18-34; figures 1-3. | 1, 3 ----- 2 |
| Y --- A | WO 2007/101924 A2 (SEB SA; LORTHIOIR, CHRISTOPHE) 13 SEPTEMBER 2007 See abstract, page 4, line 22- page 7, line 3; figures 1-3. | 1, 3 ----- 2 |
| A | KR 10-2006-0102594 A (LEE, SANG CHUL; HA SANG SIK) 28 SEPTEMBER 2006 See abstract, claim 1, and figures 1-3. | 1-3 |
| <input type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C. <input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex. | | |
| * Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family | | |
| Date of the actual completion of the international search 25 MARCH 2009 (25.03.2009) | | Date of mailing of the international search report 25 MARCH 2009 (25.03.2009) |
| Name and mailing address of the ISA/KR  Korean Intellectual Property Office Government Complex-Daejeon, 139 Seonsa-ro, Seo-gu, Daejeon 302-701, Republic of Korea Facsimile No. 82-42-472-7140 | | Authorized officer JANG, Nak Yong Telephone No. 82-42-481-8151  |

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No.

PCT/KR2008/005447

| Patent document cited in search report | Publication date | Patent family member(s) | Publication date |
|---|---------------------|---|--|
| US 2006-0006186 A1 | 12.01.2006 | KR 10-2005-0027129 US 7481330 | 17.03.2005 27.01.2009 |
| WO 2007/101924 A2 | 13.09.2007 | AU 2007-222281 A1 CA 2644909 A1 EP 1991098 A2 FR 2898032 A1 KR 10-2008-0114787 US 2009-0039096 A1 WO 2007-101924 A2 | 13.09.2007 13.09.2007 19.11.2008 07.09.2007 31.12.2008 12.02.2009 13.09.2007 |
| KR 20060102594 A | 28.09.2006 | None | |

フロントページの続き

(81)指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), EP(AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MT, NL, NO, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW